

ウンカ類情報第1号

令和3年6月1日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

**平年よりも早い時期の発生が予想されます。
ほ場での発生動向に注意してください。**

1 トビイロウンカとセジロウンカの飛来解析

日本植物防疫協会提供の飛来解析によると、愛知県には5月31日までに6回（5/17(2回)、5/18、5/21(3回)）、トビイロウンカ（図1）とセジロウンカが飛来した可能性があります。トビイロウンカによる坪枯れ（図2）が県内各地で多発した昨年と比較して、飛来予測回数が多い状況となっています（昨年同時期の飛来解析では5/10の1回のみ）。

2 トビイロウンカの発生状況

本年5月下旬の本田調査では発生を認めておらず、予察灯においても誘殺されていません。しかし、他府県では5月中旬に徳島県、和歌山県及び大阪府の予察灯で誘殺されたほか、5月17日から20日にかけて奈良県で断続的な誘殺が確認されています。さらに、5月下旬には隣県の静岡県で誘殺が確認されました。いずれの県においても、飛来時期が平年より早いとされていますので、本県でも注意が必要です。

3 トビイロウンカの防除対策

これから移植を行うほ場では、スクラム箱粒剤、リディア箱粒剤、防人箱粒剤などの育苗箱施薬による防除を行いましょう。なお、田植え期以降もトビイロウンカの飛来は断続的に続くと思われるので、薬剤の効果期間に注意してください。

移植を終了したほ場では、発生動向に十分注意するとともに、今後、本県から発表するトビイロウンカに関する情報に留意してください。なお、5月17日に飛来したと仮定して発育状況を計算したところ、第1世代若齢幼虫期は6月中旬から下旬と予測されます。育苗箱施薬による防除を行っていないほ場では、同時期に本田防除を検討してください。

4 セジロウンカの発生状況

予察灯での誘殺は確認されていませんが、本年5月下旬の本田調査（捕虫網による20回すくい取り）において、成虫1頭が捕獲されました。例年、梅雨前線が北上して大陸から本州にかけて位置すると飛来数が増加するので、ほ場での発生動向に注意してください。



図1 トビイロウンカ成虫（長翅型）



図2 トビイロウンカによる坪枯れ